WASON
HQ
1104
J74

一册五錢

權所有

當府内無郵税

各土曜日出版

明治廿一年（第百四拾貳號）十二月廿九日發

社説
明治廿一年終る○女生徒諸子を送る

論説
ラマバイ女史との問答

批評
明治二十一年内、主なる女學書○都の花素人評判○文覺上人勸進帳を讀む（四）

叢話
獨逸學士スピンチル氏の最良婦人○兄妹相抱ひて瘋狂院に行く○決して語らじ○佳人鏡に對す○萬國赤十字社大會の感（四）○女子看護法の心得（津田梅子）○島田三郎氏の通信

小説
哲女の卷

佳傳
賓壽君の小傳

寄書

新報

外報

小供談

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

The Woman's Magazine.

(JOGAKU ZASSHI.)

No. 142. DECEMBER 29TH, 1888.

EDITORIAL:—21st year of Meiji has Gone. To the Girl-Students.

LEADING ARTICLES:— An Interview with Mrs. Ramabai.

CRITICAL NOTES:—"Popular Remarks on Miyakono Hana." ' Mongaku Shonin's Kanjinchiyo."

MISCELLANIES:— "The Best Woman. (By Dr. Spinner)." "Brother and Sister to the Insane Asylum." "It will never Pay." "The Lady and the Mirror." "At the Great Conference of the Red Cross-Society. (Dr. T. Isiguro)." "Hints about Nursing. (Miss M. Tsuda)." "A Letter fom Mr. Shimada."

NOVELS:— Tetsujo no Maki.

BIOGRAPHIES:— Hojyu Kun.

CORRESPONDENCES.

GENERAL NEWS.

通信女學の廣告

通信女學 第拾五卷 發兌

蓋し最良の教科書

婦人の獨學 會員の會讀に適せり

十二月廿九日出版なり

定價一部拾錢 紙數七十頁 全國郵稅

●京濱間女學校職員表 (廿一年十一月調) (其三)

○共立女學校 (橫濱山手二百十二番)

設立 明治四年 生徒現數 一五三人

總理 ジエ、エン、クロスビー 校長 エル、エッチ、ピヤソン 役員 熊野雄七

教員 エル、エッチ、ピヤソン○イー、シヤーランド○エー、ケルシー○エー、ヴ井リー○熊野雄七○原和朗 ○野口圓太郎 ○鈴木信子○木服園子 ○湯淺糸子○片桐彌楚子○福澤清子○リナ、イワルト ○土田恒子○鈴木光子○湯淺濤子○三浦美喜子○米澤崟子

○東京產婆學校 (日本橋區矢ノ倉町十二番地)

設立 明治十三年 生徒現數 七八人

校長 櫻井郁二郎 役員 岩田文吉

教員 櫻井郁二郎○岩田文吉○堀木三之助

○佛國童貞女學校

設立 明治七年 生徒現數 二五〇人

校長 インスチデウドサン、モール

教員 佛國女教師七名○本邦助教員七名

○恒德女學校 (芝區南佐久間町)

設立 明治十七年十二月十五日 生徒現數 二五人

校長 宮原金矢 教員 宮原金矢

○童貞女學校 (神田區猿樂町)

設立 明治十五年十一月 生徒現數 一八〇人

校長 マリ、ヲリエ 役員 增田喜八

教員 有賀堀江外ニ補助教員二名

○松香女學舘 (神田區中猿樂町十七番地)

設立 明治十七年十一月一日 生徒現數 三〇人

校長 水原史郎 役員 水原慶夫

教員 水原未毯○水原史郎○水原慶夫

Digitized by Google

Original from CORNELL UNIVERSITY

女學雜誌　第百四十二號　明治二十一年十二月廿九日發兌

社説

○明治二十一年終る

明治二十一年終る、本年一月一日謹んで信約したる所ろの者未だ至らず、而して春夏秋冬端なく來往して玆に一歲を畢れり、女學雜誌五十餘卷机上に堆積す、汝ぢが同胞の天下に散亂したる者既に數十萬卷にあらずや、抑も彼等果して幾干の功業を成したる、一思鬱塞殆んど絕望す。然りと雖ども、永遠の時は永遠に進むもの也、古今前後年月日時の區分は之を緩急するに足らず、而して其進むや敢て自から進むに非ず、實に萬象億兆之に乘じて進行するのみ、之を以て熟ら其進行する所ろを見るに、整美善德の光り益々發輝して天國の遠景漸やく近づくに似たり、吾人決して絕望すべきに非ざる也。確信す正義忠德は之に導くの大道たり、人は千蹉万倒するも只だ之を踏んで進む則ち可なるのみ、故に女學雜誌にして若し此に向うか、吾人は安んじて天命の現はるゝを待たん。明治廿一年全國女學一覽成る、之を昨年末日本女學表に比較し、更に之を將來に想望して、獨り大に樂しむ。

○女生徒諸子家に歸るを送る

左は明治女學校毎金曜講談日の談會に於て演述したるものなり、思ふに現今何處の女學校にても夫れ〳〵に家に歸らるゝの女生多かるべし、則ち其の筆記を載せて如此きの讀者諸君に一覽を煩はす。

謙信が陣中の作に、霜は軍營に滿て秋氣淸し、數行過厂月三更、越山併せ得たり能州の景、遮莫あれ家鄉遠征を憶ふ、とある。亦た仲麿が明州に於て、天の原ふりさけ見れば春日なる三笠の山にいでし月かも、と詠じたる、何れも皆な故鄉を思ひ出しての感慨である。具とに故鄉と云へる者ほど吾々の心を打つ風景はあるまじ、人間到る所ろに靑山ありとは申せども、故鄉の山川草木ほどに吾々に感ぜらるゝものは決して無いヿである。山を見れば、嗚呼彼處には甞て春天溫和の日に友人と共に登り遊んだるヿありしぞ、又秋の初め天氣晴朗の朝たより一家知人打連れて彼處に茸狩に趣むきたるヿありしぞ、川を見れば、此處には幼なきとき友達等と共に泳ぎたるヿありしぞ、又釣を垂れ網を投げ漁どりたる魚を料理して彼處の河原にて共ゞ食べたるヿありしぞ、野を見れば、多くの友達と群れ集ひて蓮花草を摘みたるは彼處なりしぞ、一家族親戚重箱を提さげ毛氈を布きて遊びに來りたるは亦彼處なりしぞ、濱邊を見れば、曾て汐干に貝を拾ひたる所ろ、岩は

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

に着きたる苔を剝ぎたる處ろ、船を浮べて乘り遊びたる所ろは即はち彼處なりしぞ。斯樣に樣々に感ぜられて、見るもの一つとして昔しを忍ぶの種とならぬは無い、然し此の山川野濱のみが獨り戀しきにはあらず、之を見、之を思ふと共に直ちに續ひて感ぜらるゝは即はち友人、一家族の事である。彼の諸供に學校に通ひたる、諸供に遊び暮したる、嘗て或る時には爭論をして又乍まちに仲を直したる、又嘗ては夜遲く迄で歸らずして門外に共に立ちたる、彼の友人の何々さんは何如なりしか、彼の正月に共に遊びし以來、彼の夏の夜共に月を眺めたる以來、丁度何年の間だ相見ぬが今まは何如に爲されて在る乎、夫に越しては我家の姉妹の事、兄弟の事、年老ひ玉ふ父母の事、今頃は定めし私くしが身を語りなどして大方歸へる日を指折り待ち玉ふらん、獨在二異鄕一爲二異客一、每レ逢二佳節一倍思レ親、遙知兄弟登レ高處、遍揷二茱萸一少二一人一、萬感胸に迫まり、痛歎腸を裂くの思ひに堪へざるとであらう。私しは三年前故鄕に歸つた、其の歸つた時は故ありて八九年間再たび來まじと盟つて歸つた、既に山陽を割つて但州の境に入れば、山は笑ふ如く地は厚きが如く、空氣自づから温たかになりて香氣の馥郁たるを覺へました、一家舊友と歡樂して十數日を過ごし、早くも再たび去ると云ふ前日、露を拂つて亡き母の墳墓に詣うで、

母よ母、心くだけて泣ばかり涙の水をいざたむけせん、

と詠じました、夜に入れば月城山の巓にかゝり、全市悉く眠る後ち尙ほ我家の書齋內を窺ふたり、憮然として長歎し叫んで曰く、月よ、余れ何の地に至るとも常に汝を見るべし、然れども此の地に於て汝を見るは恐らく多年今宵を以て限りとすべしと。當時の事を坐ろに思ひ出して轉たゝ今日諸君の前に無用の述懷を致たるが、必竟故鄕と云へるものは斯程に迄強き感じを惹くものである、左れば時として古人が錦を衣て歸るなどと云たるは大なる無情の言葉で、凡そ故鄕に歸る時は錦も錦ならざるも殆んど吾には無關係のものであります、秀吉功成りて尾州の中村に歸りたるときは、最早太閤關白の秀吉にはあらずして昔しの日吉丸である、總べて官位名爵を棄て、當年の何々太郞何々の娘たる名を以て古老舊友の所に歸るは即はち故鄕に歸るの極めて樂しみある所である。

今や女生徒諸君は、即はち此の故鄕に向つて歸らんとする途にあるので、其の樂しみはさこそと思ひ測られ、吾人は其の樂しみの切なるとを推して密かに亦た喜こび居るとである。

Digitized by Google Original from CORNELL UNIVERSITY

然るに諸君は一方に於て此の大ひなる樂しみあると共に、定めし亦た一方に於て非常なる悲しみあるべし、此の悲しみも亦たさこそと推せられて、吾人同じく密かに袂を濕ほすとである、夫は即はち諸君が、今日に至る迄で朝夕晝夜共に共に起伏勉學せられたる友人ょ別れて、明日より東へ西へ南へ北へと四方に散亂せらるゝの一事である。抑も、學校と云へるものは恰かも第二の故郷の如きもので、其の同窓の學友は皆な竹馬の友の如く、同胞姉妹の如くに思はれる、成程此處ろには箱館札幌より來られたる人もあり、又長崎鹿兒島より來られたる人もある、其身分を云へば恐らく多少の相違がありませう、他日卒業してそれ〴〵の地に就かるゝときは、或は伯爵夫人とあらるゝもあり、或は貧賤に安んじて極めて卑くゝ暮さるゝもあらう、其の來れる所ろも、其行く所ろも共に異れりとは云へ、凡そ學校に在つては皆な同一の書生、同一の學友、同一の机に對して毫末の遠慮もなく學ぶ所ろの同窓の友人である、此の樂しみに本來の出所産地を問ふの遑まなき如くに、他日世の中に出でゝ再び相見る時には、亦た其地位の同不同を問ふの掛念もなく、直ちに手を握つて昔しを談ずるの樂しみあるべし、恰かも故郷に歸つて胸襟を開き、自由快活に舊知人と遊ぶの趣きに同じきものである、故に學校を第二の故郷なりとするは實に味わひあるとて、此の故郷に於て在りしとは一生の間だ決して忘るゝとが出來ぬ、昔し孝武皇帝一天萬乘の尊位に就かれたる時、舊友嚴光と云へるもの來り遊びては、夜共に臥して其上み塾中に同衾したる樂しみを思ひ出した、之は即はち同窓の親しみで、社界に出でゝの後の友人には決して求め得がたきの交際である。然るに諸君は、暫しありとも此の尤も愛すべき同窓の友人に別れ、明日よりは最早ともに下讀を爲るとも出來ず、共に温習をするとも出來ず、ひとり〴〵に離れて其の故郷に向つて歸らるゝのである。

一方には甚はだ喜こばしき望みを有し乍ら、又一方には此の極めて悲しむべきの歎きある、今日の諸君の地位こそ實に尤も幸はひなるものであらう。即はち學校に居りてこそ三巴遠き故郷の實に慕はしきとが分り、既に故郷に歸りてこそ初めて學校の友人の實に慕はしきとが分る、諸君が今日の一喜一憂は取も直さず諸君をして一段の修練を爲さしむるもので、決して以て輕々しく徒らに泣き笑ふては成ませぬ、今こそ諸君は尙ほ故郷に父母友人がある、又た學校の友人と再び握手

するの樂しみもある、此際に於て能く〳〵經驗し、勉めて其の故郷を愛するように、勉めて其の學校を愛するように、一言するに尤も勉めて其の第一第二の故郷の人々を切に愛する樣に學ばねば成らぬ。

今や別るゝに臨み諸君に二箇の餞を呈すべし、何卒之を受納して久しく所有せられよ。吾人が今の女生徒の父兄の方々に聞くに、方々は大抵其の女生徒に付て不平を懷かるゝよしなり、而して其の不平なる者を承たまわれば、之れ實に尤もなる不平で、左もあるべきと甚だ感心いたすのである、即はち大抵の方々が言わるゝには、女生徒がアヽ生意氣に爲つては困まる、アヽ書生風に爲つては困る、何ぞと云へば親に向つて議論めきたるとを云ひかけ、たゞ何かと利口風で吾々を蔑しろにする、イヤ女權擴張とか男女同等とか申して、男子と見れば倶不戴天の仇なりとて眞甲より打も懸らん權幕である、昔しは隨分母の手助けも致したるが、此頃では朝は尤も遲く起き出でまして、夜は尤も遲く眠ります、食事をすれば膳は其儘にして直樣新聞紙を讀み、其處が汚れ在つても箒を執らうとも致さぬ、斯るとが女子教育と申すとあらば娘供は最早學校へは遣はし申さぬ、イヤ既に遣はしたるは此冬より退校を致させ申す心得なり云々との次第で、吾人は之を聞くごとに實に父兄の心中を察し、又以て女學の誤まりに陷いれるを歎げき、毎度歎息に堪へざるとである。

此の不平は尤もなる事で、余は其過ちの多分は女學校と女生徒とに存すると思ふです、而して其の過ちの由て起る元因は恐らく左の二つの道理を辨ぜざるよりして來るとと信ずるです。所云る二つの道理とは、一に自負と謙遜との兩立の事、二に高尙と實際との兩立の事にて、以上二つの兩立すべき德を併せ有するの覺悟なき故に、扨ては大ひなる誤まりにも陷いるとと考へる。

第一に、學問して生意氣となると云ふは、實は學問を爲ないのである、學問あるものは人に若干の知識を與へる者であるが、此知識の中には益す以て學問の廣大なると道理の莫大なるとを示すの知識を含むゆへに、彌よ學べバ學ぶほどに知難き眞理の多く存するとを悟りて、則はち益す以て其の高慢の念を挫くものである。然し乍ら其の既に學び得たる丈けの道理は確かに身に着いたり、又其の道理に由て考へれば、吾は一個の人間である、一個の魂しひを持つ自由なる女子である、たとい學問智識は倘ほ高からずとも、人に踏にじらるべきも

のでは無いと悟る。斯く一方には自らの尊ときを知り、敢て爲せば隨分に爲せると云ふ自負の心を起し乍らも、亦た一方に於て天下の大道理を察し、天上の上帝を思ひ見るときは、吾は是れ宇宙間の眇乎たる一人にして何の力もなきものと感じ、眞正に謙遜する、所云るヘリクダリ且つタノム、謙遜自負の二つを合するとは即はちこれである。マコウレーが淸敎徒を評したる言葉に、ピウリタンの人と爲りは全く異りたる二人より成れる如し、一は謙遜し、懺悔し、感謝し、敬信する所ろの人、一は自負、安泰、剛毅、賢明、なる所の人なり、則はち神の前に於ては砂塵の下に屈伏すれども、然れども能く其土足を揭げて君王の首に加ふ、…彼が奇異なる聲を發し、讃美祈禱し、慟哭して罪を悔るを聞けば、何人も笑ふべし、然し一旦議場に出で、正義を論ずるとき、戰場に出で、劒戟を揮ふときは、何人と雖ども彼が後へに瞠若たる、と申したが、此の評は即はち謙遜自負を兩立するの徳を甘く形容したるもので、吾が女生徒諸子は、何卒其の學問を深くし、其の見識を高くし、道を踏で少かも懼るゝなきの膽力を備へ乍らも又何卒謙遜溫雅にして、決して婦人たるの淑徳を失はぬように爲されたい。然るに學問して生意氣と爲ると云ふは、啻に眞正の學問をも爲さぬ人であるのみか、實に只だ自負心に計り走りて其の末驕慢の弊に陷いり、之に謙遜の徳を幷せて、眞正の學問の効能を現はさゞる所ろの人である。

第二に、高尙の事を言つて實際の事を行はぬ眞正の高尙なる人でない、凡そ天國の民たらんとするものは先此の國の民たらねば成らず、未來の救ひを得んとするものは先現世に功を爲さねば成らぬ、太閤は大ひなる志ざしがあつたればこそ草履をつかむ時には正直に草履をつかんだ、藏番をする時には正直に藏番をした、孔子は大ひなる志ざしがあつたればこそ、稅吏と爲つては升目が正しく、司職の吏と爲ては家畜が蕃息した、基督は大ひなる志ざしがあつたればこそ、先づ大工と爲つては正直に大工をした、人と同じ通りに斷食もした、洗禮も受けた、凡そ此等の豪傑聖人君子は皆な高尙至大の志ざしがある故に、則はち目前卑近の實際をば極めて大切に致されたのである、高きに登るは卑きよりし、梯子を上るには一段〳〵を確かに踏まねば成らぬ、志ざしが高尙なりと云つて現在の義務を忘るゝは眞との高尙を慕ふ者とは申されぬ、昔し陳蕃は、天下を掃除して一家を掃除せぬと云ふた、然し此の一家は掃除せぬと云ふ愚なる粗漏があるゆへに後に愚人

と共謀して身を誤まるにも至つたことぞと、太田錦城は適評したり。故に今の女生徒諸君は何處までも高尚に志ざすべし、然し高尚に志ざすと共に則ち尤も實際卑近なる義務をも大切に盡し行れねば成らぬ、加賀の千代は水を杓み乍ら古今の名吟を遺し、聖女マリアは髪を以て足を拭ひつゝ千古の美範を殘した、

故に何如に卑近なりと見ゆる所ろも決して高尚の志を行ふことの出來ぬ所ろはないです、左れば家に歸りて掃除すべき時は勉めて掃除せよ、水を杓むべきときは勉めて水を杓よ、是れ則ち尤も高尚なることである。

斯樣に自負と謙遜とを兼ね、高尚と實際とを兼ねたらんには、即はち學問によりて生意氣となり不精者となるが如き過ちもあるまじ、此に至て父兄の喜びは何如ならんか實に幸ひなることであらう。凡そ日々相見るときは其變化を悟り難きが、一旦離るゝときは乍ちにして其變化を見出すもので、三日相見ざれば既に昔しと變りしことを感ずることも出來る、故に今ま故鄕に在らるゝ諸君が父兄は、明らかなる鋭敏なる眼とを以て諸君が學校に於ての敎育は何如なりしかと撿視せらるゝであらう、此時に當り、諸君にして若も所云る生意氣に不精にてあらば、父兄は乍ちに之を見出して大ひに不平を洩らし、女子敎育と云へるものは斯るものなるか、之れでは最早愛娘を再たび學校に送ることは出來ぬと言ひ、近邊の他の父兄も之を見て亦た其の娘を學校に送ることを中止するであらう、然るときは是れ啻に諸君一人の不幸にあらず、啻に父兄の方々のみの不幸にあらず、實に女學全躰の上の不幸である。

然るに之に反し、若しも諸君が極めて高尚の志想を懷き乍ら昔しに變らず能く女の藝を盡し、學問の力は大層に進み乍ら從前の女德を失はず極めて優雅温厚なり、否啻に從前の如くあるのみならず一層に温雅に一層に能く實際の事に忠實であらば、父兄は其娘の風采の高尚となりしと、其の樣姿の温雅なる事、而も其の學力の驚ろくべき事を見て、扨てこそ女子敎育は斯く迄でに効能あるものよと感じて、彌よ之れに敎育を受けしむることを喜び、只今の學校が畢りし後ちは一層高等の學問をも學ばしめんと迄で志ざゝるゝであらう、而して近邊の父兄も亦た之を見て、斯ては其の娘も一日たりとも田舍に置くべきにあらず、彼の孃の如く成らせねばとて、之をも亦た共に學校に送るに至らん、此に至れば、啻に諸君一人の幸福にあらず、啻に父兄の方々のみの幸福に非ず、實に女學全

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

躰の大幸福である。斯して諸君は故郷に於て父兄を十分に喜ばせ、更らに其の故郷の舊友を同伴して、新年早々再たび學校に歸り、其の尤も愛する所ろの同窓の友人と再會するに至らば、今の一喜一憂は即はち皆な大幸福の基ひとなるとであらう。

而して余は諸君を送り、諸君居らざる間だ諸君の爲に祈り、自ら教練して愛性を増し、諸君が再來の日一層の福利を與へ得るの修業を爲すべし、フエーアウエル最愛する所の諸子。

論説

○ラマバイ女史との問答

編者云、同女史來着后直ちに社員を派し左の條目に付き問答したり然るに其時前號の雜誌は既に印刷を了し將に發送せんとするの砌りなるに年末混忙活版舍に於て之を附錄としてだも印刷致し難き事情ありて乍殘念遂に之を本號に載するとしたり東方已白後報曉の歎なきにあらず讀者請ふ恕せよ。右に付き本號には津田仙氏の演說文續稿を畧す。

奴隷の境界に沈淪し居る四億餘万の蒼生の中に生れ、巾幗の身を以て、人口の過半を占むる婦人社會改良の曉星とならんと自任する、ラマバイ女史は其本國印度に歸るの途次にて我國に渡來せり、即ち廿一日朝夫人を横濱山手二番ブリアン孃の居に訪ふ、夫人擧止快活にして、齡三十三、顏色は通例印度人種にして、日本人の稍淺黑きが如く葡萄牙人と異ならず、身には質素なる鼠色の洋服を裝ひたるを見れば、純然たる西洋婦人にして、談自國婦人の壓抑に苦むとに及べば、全身に力を入れ、肩を張りて激語す、實に東洋未曾有の女丈夫と云ふべし、余は夫人長途の勞を慰め夫人は來訪を喜ぶの旨を陳べ左の問答をなせり。

問。本邦に渡來せられたる主旨は如何。

答。日本婦人進歩の有樣、並に日本人民全躰の如何に開化に進歩しつゝあるかを見ん爲に來れり、殊に日本に於て矯風會の運動は余の殊に觀察せんと欲する所なり。(此時夫人は左胸部にピンを以て留めたる白色の徽章を示し)、是は万國矯風會の會員たる證なり、余も其會員の一人なれば、諸國に於ける矯風會の進歩勢力を視察し、他日本國印度に歸りたる後は卒先して、印度人民の中に万國矯風會の一支會を設立せんとする心組なり、是れ亦た余の日本に來遊したる目的の最も重なる者なり。

問。何日程日本に滯在の見込なるや。

答。十日間程滯在の心算なり、長き旅路にて餘程疲勞を覺へたれば、次の香港郵船に搭して、歸國の途に上らんと思へ

り。

問。日本より直ちに印度に歸らるべき乎。

答。早く印度に歸りたくもあり、且つ途次別に立寄るべき所もあければ、直ちに歸國の積りあり、殊に支那の如きは、廣漠の國なれば到底も途次立寄りて見物すると能はず。

問。印度にて女史の「ハイカースト」の婦人の爲めに設けらるゝ「ホーム」設立入費募集金は最早調ひたりや。

答。然り米國人民は非常に余の企望を賛成し已に七万五千弗を募集して將に設立せんとする「ホーム」の資金に充てんと、を約したり、今現に米國にて「ラマバイ協會」と名けたる會合を設け、印度婦人の慘狀を愍み、救濟せんとして資金の募集に盡力するもの、六十四の多きに及べり。本協會はボストン府にあり、其他は米國中殆んど到る處に之あり。

問。右はキリスト教傳道の事業と關係ありや。

答。無し、印度にては高貴の社會には、殊に宗教の思想、甚しくキリスト教は印度固有の宗教組織を破壞するものとして、痛く之を忌み嫌ふ故、宣教師の如きは全く高貴の婦人には接見すると能はず、絕て交際の道なき位なり。

問。日本にても募集の見込ありや。

答。日本にても募集が出來るなれば勿論致し度思ふあれども初より其目的ありしに非ず。

此時余は日本人が近來女子教育に對する感情の一變せしを告げ、且つ他國の婦人殊に夫人の生國印度の婦女の人類の取扱を受けざるを見て、憤懣憐愍の情あり、日本の義俠なる有志者中には夫人の來遊を機會として、「ラマバイ、アッシエーション」を設け、夫人の事業に贊同せんとする目論見あるを語りたれば、夫人は大に欣喜の色あり、語を續て曰く、凡そ一國が他國の慘狀を見て之を愍むの情を惹起すべきは、當然のとなり、善良ある事業には御互に「インタレスト」を有すべし、今や印度婦人の狀況は、實に他國の愛愍を要するなり、日本の有志家諸氏が是が爲に盡力せらるゝと云ふは、實に余の感謝して措く能はざる所あり、然り今日本は憐むの位地に立てり、印度の姉妹を憐み給はんとを願ふ、若し印度婦人が他日其枉屈を解かれたるの日は、日本の爲に盡力するの時あるに非るべしと、此の時の風采實に夫人の自任豪毅の風、顏色言語に臨る。

問。女史の著書（壹弗三十錢にて賣拂て其金を學校設立の金とす）を日本にて賣拂はるゝならば、女學雜誌社は廣告其他

何事にても、出來得る丈け勿論半錢を要せず盡力致すべし。

答。若し然らば、實に感謝に堪へず、右書の賣捌元は合衆國イリノイス州シカゴ府ラサル町百六十一番婦人矯風會出版會社宛にて、書を投ぜられたし。

問。定めし婦人矯風會の爲めに、演舌さるゝことあるべし、女學雜誌社の爲めに一場の演舌を爲し被下べきや。

答。喜んで致すべし、矯風會の爲めには已に來る廿三日午後二時より東京の某所にて演舌するの約あり、金曜日午後：左樣其時丈け閑暇なれば、若し其時なれば喜んで、女學雜誌社の爲に演舌致すべし、實に日本の婦人紳士諸君が余を厚待せらるゝは、深く余が心肝に銘して忘れざる所なり。

問。英國婦人社會及び英國人民一般が印度の寡婦等の愍むべきものゝ爲に、如何に感じ居るや而して米國人民の感覺に比較すれば其感情如何なるや。

答。英國人の印度に居留する者の中にて、印度人に對する感情を區別すれば二種類に分つべし、第一は英國より印度に派遣せられたる軍人にして、印度の貨物を歐洲諸國に運搬し利を射るを目的とする商人社會なり、彼等は自國自分の利益を知つて其の他を知らず、彼の尊神は唯自己の便宜利益なり、彼等は印度の婦人が如何なる取扱を受るも、毫も痛痒を感ぜざるなり、彼等は印度人を觀るに、劣等の種族とす、是等の人士は實に共に印度婦人、印度人民の枉屈を訴ふるも益なし、悲むべき哉、然るに英國人の多分は皆な如此の有樣なれども、他の種類の婦人紳士等は大に我國人民、殊に婦人に憐愍の情ありて、頻に其痛しき有樣を嘆ずると雖も、自ら手を下して印度人民救濟の爲めに時と金とを費さず、尤も英國婦人にして我國婦人の爲めに事業を起せしハ、今より四年前今の印度大守ダフェリン侯の夫人印度婦人の爲めに、慈善病院を設立せしのみハ是れとても多くは印度人自ら金を出したるものなり、印度在留の外國人は、宣教師を除きては、深く印度人の爲めに憂ふる者殆んど稀なり、抑そも我等印度人の要する處の者は、只憐愍の情のみに非ず「ヘルプ」なり、同情の感なり、印度人は今自立補助する能はざる憐果敢なき境遇に立てり、是時に當り扶助なき我が印度人民の爲めに如何に「ピテー」を有するも我等の境遇は一寸だも改良すること能はざるなり、又英國本土の人は印度人の境遇に就てハ、殆んど聞しことなき者の

如し、然り偶々其情實を悉知する者ありと雖も、亦た只、「ピチー」のみ、併し英國人士も多少盡力せざるにはあらず……此點より比較すれば、米國婦人紳士は實に力ある助勢を爲す者あり、彼等は印度の寡婦救濟の爲め會合を設けたり、彼等は我等の爲に金を募れり、米國人民は實に我等が爲めに眞個の助力を與へらるゝ者と云ふべし。

問。印度、全躰の進歩獨立に對する、女子の感情見込は如何ん、願くは胸襟を披いて語られよ。

答。印度は決して今日の狀態を以て滿足すべきものに非ず、必ず進歩すべし、亦た進歩せざる可らず、進歩すれば永く英國の覊絆の下に在らず獨立すべし、併し獨立は未だ我等の時代には成就せざるべし、百年二百年の星霜を要するやも知可らず、然れども永く壓制の下に呻吟すべからず……(少しく激して)然り印度は永く奴隷の國たる可らず。

問。日本に對する女子の感情如何。

答。余は五年前、巳に日本の事に就ては屢々聞き又新紙書物上にて讀みたり、巳に日本人の進歩の氣象ある、其文明に進歩する速度は驚嘆の外なしと云ふべし、殊に其義氣愛國心に富めるは、余をして深く日本國を愛せしめたり、又婦風の運動は喜ぶべし、婦人の有樣風俗も實に喜ぶの外なし、併し此に一言したきは、日本人が一も二もなく西洋の事物を摸倣輸入せざらんとなり、洋の西より來るもの必しも、悉く純金のみにあらず、歐西の文物を採用すべき國柄に在ては殊に注意すべきとなり、例へば今日本に行はるゝ女服改良の事なり、洋服には短所極めて多し、若し一に文明國の服裝ありとて之を取り用ひば、實に禍と云ふべし、近來歐米には婦人服裝改良會あるもの起れり、若し日本婦人の方々にて西洋服に變へらるゝあらば、同會の仕組より改良せられたる服裝を採用せらるれば宜しからん、若し然らずしてフランス流の緊迫なるコーセット細き小さき靴を穿ち、而して文明の衣服を輸入せりと思はゞ、日本の人々は益々矮少の種族となるべし、是れ余の大に憂ふる處なり。

問。印度宗教上の有樣は如何。

答。一言せば數千年來の古昔も、今日も少しも變るとなしと雖ども迷信固執して、社會の上下一隅より一隅に及ぶ、其思想の改良進歩とては殆んどなきが如し、キリスト教の傳道師ありと雖ども、民之を嫌ひ其勢力も亦た人民の間には感覺なしと云ふべし。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

右にて余は談話の局を結べり、夫人は米國の女醫エンマ、ブレイナード、ライダー孃と同伴せり、同氏は萬國矯風會の一員にして、夫人を送りて印度に至り、夫人の建設さるべきホームに連結して一の病院を打立んとの目論見ありと云ふ、夫人は廿日午後二時矯風會員の案內にて東京に上り、午後十時過歸濱せられ廿一日朝は横濱山手二百十二番共立女學校及び同百七十八番フェリス女學校にて演說せられたり。

批評

○明治二十一年內、主なる女學書

當年內に發兌せられたる女學書類中、其の主なるものは左の如し、而して其の一書にても此の女學雜誌上に批評せざりしものはあらず、

孝女美談沙漠の花　開化小學女日用文例　婦女鑑　東洋之佳人　結婚の枝折
女子敎育論　日本情交之變遷　日本將來之婦女　明治之細君　家政常本　今世ひめ鑑　女子頴才集　女權の眞說　婦人言論之自由　日本婦女之地位　眞裝婦女實業案內　女用消息文　婦女の敎育　產前產後　婚姻事情

隨分に心細きもの也。而して現に發行しつゝある女學上の雜誌は左の如し、

	最終發兌	
女學雜誌	第百四十二號	明治十八年七月始
いらつめ	第十八號	同　二十年七月始
貴女之友	第四十四號	同　二十年九月始
日本之女學	第十六號	同　二十年九月始
婦人敎會雜誌	第十一號	同　廿一年二月始
婦人敎育雜誌	第八號	同　廿一年五月始
女　新聞	第三十號	同　廿一年六月始
日本新婦人	第四號	同　廿一年九月始
君子と淑女	第三號	同　廿一年十月始
文明之母	第三號	同　廿一年十月始
淑女之苑	第一號	同廿一年十二月始
東京婦人矯風雜誌	第九號	同　廿一年四月始
大日本婦人衛生會雜誌	第五號	同　廿一年一月始

斯く澤山に入用のものにや。

○都の花素人評判　　乾坤一布衣

一トロに雜誌と云へば。流暢一遍右から左へと屑屋の手に渡るをもて常とすれど。群綠の中に一紅を點じたる都の花は故郷として四方に薫じ。讀む人をして驚心駭目せしむ。

右はある人の咄。布衣其言を聞き空嚢を逆まにして是を求め。齋戒沐浴して拜讀する事既に五冊。漑然として大息して曰く。嗚呼明治文運の度知るべきのみ。香亭氏の言に頼れば。都の花譜篇の著者は往々はゲーテたりシェークスピヤたるべければ。此書の盛衰に由りて文產の隆替を知るべく又世の喜厭を知るべきなり。夫れ記者は自ら任ずる事厚し。編者若し世を欺かずんば布衣是を悲まざるを得ず。如何に喫辭を呈したくも都の花譜篇に由れば。明治の文學は衰替せりと曰はざるべからず。誰か驚心駭目するものぞ。恐くは經國美談一篇を讀み。亞羅比亞物語一卷を窺ひたる輩なるべし。都の花は是を例ふれば水呑百姓が燕尾服を着し高帽を戴きたるが如く當風流紳士が見本となすを得んや。布衣元より文學專攻のものにあらざれど。花柳春話春鶯囀を讀で英國小說を想像し。該撒奇寃狐之裁判を讀て英獨の戲曲を推究したり。殊に性來のお世辭嫌。今遠慮なく酷評を下す事次の如し。

花車　有りさふで無さゝふな咄。困て車を引く書生（寧ろ學問に志す車夫）ならば兎もかくも。困らずに好んで辛勞するとは不思議な主人公。ソシテ其卓犖不羈なる人が車を引く事を秘すとは愈々不思議（自立獨行は名譽。實は自慢しても能イ筈）。例へて見れば彼岸櫻。爛熳と咲亂るれば遠山に雲か霞かと怪まるれど。花は小さくして風韵更になき計りか風雨一過すれば忽ち狼藉。盛は僅に一ト夜。シカシ都の花の大立者。布衣曾てある歌詠に聞く。「きりぎりす鳴や霜夜のさむしろに衣かたしきひとりかもねん」なる歌は各句ともめづらかならねど。詞のつゞけさま等めでたきにより五句金玉と云ふト。花車は蓋し其類なる歟。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

許嫁の縁　意到り筆到らず。筆到り意到らず。例へて見れば菩の花。古人の句に「恐ろしくすべりしあとや菩の花」。

めぐりあい　自在に廻はしたる筆。原文の妙さこうと思はる。シカシ隴を得て蜀を望むは人情。既に原文の妙を悟れば譯文の妙も復た知りたきものなり。例へて見れば桂の花。奇なるか奇ならざるか。艶なるか艶ならざるか。雅なるか雅ならざるか。更に解らず。桂といふ名――見なくても美しさふです。二葉亭と云ふ名――讀まぬさきから面白さふです。

中原の鹿　ベル子の猿眞似。ベル子は理學で筆を走らし。是は筆で理學を走らし。ベル子は小說に理學を利用し。是は理學に小說を使役せる相違。管々しく曰はずとも具眼者は說あるべし。唯一事を擧て著者に質さん。若し報知新聞說林の欄を除き博聞雜誌廢刊せば流鶯子又筆硯を放棄するや否。例へて見れば優曇華の花。いひかへれば濕氣から生ずるかび。

淑女の操　悲慘で筆を結びしは斬新。夫婦約束を種にしたは陳套。蕣野のキヤラクタア一完美。露子は清子（俠美人）の生れがわり。左程面白くもないがある人の評の如く惡くもない。例へて見れば朝顏。新題林に「朝がほはあさなく／＼にさきかへて盛久しき花にぞありける」とあれど。素人が曰へば。露も干ぬ間にしぼむ花。可愛想だ可愛さふだと思ふ花。消てなくなるアッケない狂言。

華胥の夢　馬琴京傳の句を粉にして合巻の鑄型に入れ。翻譯の箔を着せたしろ物。先づ無事平和にして今戸燒の人形に金粉（イヤサ銅粉）を施したるが如し。地がフエヤリー、テールめゐ縁日の賣品。お子樣方の氣ニ入ります。例へて見れば蓮華草。野邊一面に咲揃へば奇麗。ケレド兒供のおもちや。雅人墨客の眼には入りません。

諧文評釋　ある人は眞打と云ひ。ある人は蛇足と云ふ。布衣は眞打とも蛇足とも思はず。小說でも作らんとする人。批評でも書ふとする人。は必らずおろそかに考ふべからず。例へて見れば無花果。實ばかりでは花なし

都とは大江戸の事なるか。花はそも何處にある。忍岡隅田提の櫻堀戸小村井の梅は芳野月ケ瀬に比ぶべきや。作り菊の人形鉢植のいぢけた鬮何の妙味かある。菊は荒れたるまがきの下に霜を傲るをもて雅しとす。蘭は谷かげに芳を垂るゝをもて雅なりとす。都の花なりとも菩の花優曇華の花は咲かずもがな。朝顏も面白からず蓮花草も俗なり。桂の花は月界の名物と思しく無花果は愛すべき色なし。唯彼岸櫻は厭かぬ色あれども木は若くして枝態妙ならず。輕き事は花びらの風に散るに似たれど。地に穢れば塵に汚れて見所なし。無精者は雪の如しと賛むるか知らねど。秋の錦を踏んで音あるとは大きなちがひ。都の花ゝは名木なし。朝日に匂ふは山櫻。唐びたるは鄙の梅。百花園の七草入谷の朝顏は吾妻蛙（田舍知らずさ）の賞翫に過ぎず。「都の花」の諸子。暇あらば杖を名山大澤に曳け。幽谷深澗の中に奇葩珍卉は色を爭ひ香を競ふべし。京丸の牡丹耶馬溪の怪石は諸子の嫌ふ處なるか。よし一歩を讓りて鄙の花山の花は諸子の喜ばざるものとするも。枝振惡きヒヨロ／＼櫻の蔭に娛むとは言甲斐のなき事ならずや。布衣元より二三年の若木を愛するものにあらざれど。彼れ獨り傑然として To His Comrades Contemptuous we see him Look down. の姿あり上野の花面白からざるも數十歳の若木なきにあらず。諸子よ是よりは江戸名所圖會を繙き。遍く名園奇木をさぐり。植木屋に年季を入れて花を相し花を養ふの業を研け。布衣某恐惶恐縮頓首死罪

乾坤一布衣と申すは小生莫逆の友なれども飜譯小說を二三册讀みて活眼家を氣取る厄介者根は正直なれども口さがなき白者にて此ほど右の盲評を草して小生に送りたるがさすがに割愛するに忍びざれは女學雜誌社に送りぬ都の花の諸先生其愚を憐み其不遜を咎めずして可なり

不知菴主人

○文覺上人勸進帳を讀む（其四）　不知菴主人

第一　前にも述し如く。芝居は情思の寫眞なり。芝居に衒ふ處のものは充分に其情思を寫すにあり。故に其キヤラクター（人物）にして不完全たらば芝居は則ち不完全と云つて可なり。クレイク、ハズリット等の批評家が主としてキヤラクターを吟味するも是が爲めにして。セキスピヤ翁が宇宙間第一流の人なりと文學界に推稱せらるゝも其キヤラクターの完全なりしに由れり。見られよ翁は美德を取てコルデリアと名けトロイラスと命じ。奸惡を以てシヤイロックを造りマクベスを刻み。時代狂言に於てはブルータスの愛國誠心カッシアスの譎詐奸謀目前に見るが如き。（我國にては先代萩の政岡盛衰記のお筆等を秀逸なるキヤラクターとす）蓋し文覺の人と爲りを見るに脫俗超凡の禪宗和尚にもあらず。磊堅の利劍を振回す奈良法師にもあらずして權謀術數に富みたる不思議の僧なり。然るに此脚本は那智山に於て其堅固を顯はし。白河御所に於て其兇暴を寫せ。捉六の物語に膽大を示せしのみ。唯伊豆配所の場に於て少しく其特質を描きしが如けれど。夫すら三百代言の口吻に類して未だ文覺を穿ちしと云ふべからず。殊に文覺が賴朝をそゝのかせしは天下を憂ふるにあらずして一には事を以て平家を恐み二には偏執なる嫉妬心其前躅をなせしに少しも此秘密を訊かざりしは抑も大缺點なりと云ふべし。

第二　「いらつめ」記者も安宅勸進帳と比較して名句少きを難じたれど斯は獨り此脚本のみにはあらず。竹田近松が淨瑠璃は扨置き遜帳類には大抵名句に貧し。曾て清元福五郎と云ふ男日本には曰くなしとて罵りしと聞きしが。無風流なる偉人傑士は兎も角も文學の花とも云はるゝ脚本作者に曰くなき事驚くべし。西洋の書籍を開けば忽ちにセキスピヤ曰くシルレル曰くを見れども。日本には引用する句なきを如何せん。マクベス夫人及ヘンリー四世の獨言アントニー及ヘンリー五世の演說等は一唱三嘆の妙あれども我國の南北左交の正本を取て血眼になつて見るとも文學の模範はおろか落語家の前置だに拾上るを得さるは殘念ならずや。本朝語園や唐詩選を賴みとするエセ作者ならば更に曰はず。當世能文の大家を以て許

された。詞壇の老將とも目さるゝ學海先生なればこそ望むなれ。シカシ名文句とは豊澤山の字にもあらざれば七五の對聯みも候はず。是れは勿論お承知と存ず。偖て此脚本は果して演戲に適するやと云ふに

第一　演劇の立者(Chief dramatis personae)は通例數名ありて善惡邪正相對し其内一人中央主人公となる事助六に揚卷意休、辨慶に富樫義經あるが如し然るに此脚本には善惡邪正の相對なきのみか立者とも云ふべきは少なく各々新陳代謝し幕變れば人も亦變りて面白味殊に薄し。

第二　舞臺(Scene)數極めて多く道具立に費用を要するのみか。臨時にして舞臺變れど。興味あまりにあつけなし。

右の二件より判ずれば此脚本は通し狂言とはなしがたし。若し前後を割愛して白河御所の場なのみ中幕に出さば伊勢三郎或は高時天狗舞と共に新十八番の内に入るべしと斷定す。

兎も角も先生の脚本は尋常作者の作と日を同して語るべからず。試に夏文彦の畵品說を借りて曰へば文覺上人勸進帳は能品なり。昔し近松が國姓爺は十七ケ月間喝采を博したりと。今の芝居は大入と云ふも五六日に過ぎず先生願くは妙品神品を作て是が衰頽を救ひ是が弊害を匡し天晴日本のビクトル、ユーゴ氏となり給へかし。服する處多ければ望む處も亦多し慕ふ念盛んなれば難ずる念亦盛んなり依田川尻兩大人庶幾くは余の不遜を咎めずして其狂愚を憐め。妄評多罪。

叢話

○獨逸學士スピンデル氏の最良婦人

獨逸國の學士兼宣教師スピンデル氏は兼て女學上の問題に關し大ひに說ある由にて、現今の日本には右女子教育の議論程に適切緊要なるはあらずと主張し居る、左れば從來其演說せられたる女學論も少なからざるに、元來獨逸主義の女學論なれば其論の例の如く着實あると共に亦往々服しがたき說ありしが、去廿三日本鄉壹岐殿坂會堂に於て演說せられたるものの如きは、其持說に多少の進化ありし者か論理大ひに活潑にてありし也、之を現今獨逸主義の女學を代表するの一議論なりとして見るときは大ひに注意せざる可らず。同日の演說は「最良の婦人」と題し、箴言卅一章十節以下に本づきて、左の如く述られたり、

最良の婦人は到る所ろにあり、啻に基督教國のみならず何の國にもあり、人種に限られず古今何の時代にもあり。

容色美麗、裝飾完備、會話巧妙、歌樂堪能、學問高遠、交際社會に入て女王と爲り、男子に敬服せられ、多く外界に奔走す、之れ最良の婦人乎。否。

經濟政治の學を修め、政黨の興敗、商業の盛衰等に熱心し、夫と同じく外事に奔走し、子は姆に托し家政は婢に托す、之れ最良の婦人乎。否。

之を禁閉し、決して外界に出さず、戶內是れ女城にして、常に茲に籠しむ、如此くなれるもの之最良の婦人乎。否。

最良の婦人に三の要素あり、利口ある事、決斷ある事、愛情切なる事、是れ也。

女子は男子よりも深く考ふるとあり、其の斷決亦甚だ固きとあり、古今に實例多し、故に女子は多く學ぶよりも深く學び、且つ一旦事ありて之に任ずべき時は毅然起ち

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

斷然之に應じて決して退く可らず。女子の愛情尤も切なるべし、此の愛に智慧と決斷とを結合したるもの之れ最良の婦人也、而して如此き婦人を教育するは基督教と及び此の教に適ひたるの教育となり、彼の踏舞により交際によりて斯る最良の婦人を得んとするは抑も愚也。

如此き議論に至ては、吾人双手を擧て之を賛成せざる可らず、獨逸主義の女學今後希くは皆な如此あれよ。

○兄妹相抱ひて癲狂院に行く

今を距る五十餘年前に死去したる英國高名の著作家チャーレス、ラムと云へるは、彼のシエクスピーア院本抄又はエリア論集等と云ふ名高き著作十數種を著はしたる學士なるが、玆に最と感歎すべきは、其の著作の多くは皆な妹の爲に作りたりと申すことあり。妹はメリーと云ひ、嘗てはラムと共に書を著はしたることもあり、兄妹の間だ極めて睦ましかりしに、不思儀なる腦痛の故にて時々神經症の病に罹り、全くの癲狂となることあり、其治療の入費莫大にて家常に貧しかりければ、扨ては此の必要に迫られつゝ僅かに著作の料を以てこれを充たせるなりと傳ふ。然るにメリーの發病は折々の事にて、其の將に發せんとするに先だちては自からにも之を覺り得たる程なれば、既に此の時の近づくに及んでは、兄妹相抱き、痛哭しつゝ癲狂院に趣むけりと云ふ。

○決して語らじ

語るなと人に語らばその人が語るなどと語る世の中

何事にても凡そ人に聞かせまじと思ふものは、先づ之を己が口に聞かせざるを可とす、既に秘すべき事を當の己の口より發するほどなるに、之を聞たらんもの何如で亦秘すべきと思ひ乍ら其口に發せざることのあるべき、此人のみと思ひて語りたらんには、其人も亦た此人のみと思ふ人あるべく、此の思はれたる人も亦た此の人のみはと思ふ人あるべし、斯て秘すべきを秘せよと云ひて話すときは、又此を秘せよと云ひて先に傳ゆることもあるべし、如此く一言一段を進み、波の如くに廣ろまり、遂に全面に行き渡らねば止まぬものなり。

左れば秘すべきは眞秘として之を語らざるを可とす、然るに親子兄弟姉妹、ことには夫婦の間だ柄には秘すべきと云ふ事のあるまじき筈なり、就中夫婦は一躰と申せば、其心も一つ其の胸も一つにてあるべし、左らば何物かは相秘すべきことのあるべき、万事明白にして一點一畫も相隱くす可らず、但

だ要する所ろは其の秘事の夫の口よりも妻の口よりも出づべからず、啻に夫婦兩々の胸の中にのみ包まるべしとは云ふなり。然るに世上の男子多くは云く、女は口輕ろくして大事を洩らすの癖あり、切要の事は決して語る可らずと、之れ誠に然るか、苟くも然りとせば女性の恥辱之に過たるはあらず、彼の意味もなきお世辭をペラ〳〵と辨ぜらるゝ、尚ほ可なり、希くは一心同躰の人の秘事、否な寧ろ其身自身の秘事をして得て他人に聞かしむる勿れ。

○佳人鏡に對す　空恨夫人

佳人鏡に對して涙漣々、容貌何すれぞ如此にとはなれる、想起す陽春墨堤の上、櫻花爛熳として燃ゆるが如し、美神一笑して妾を導き、天緣乍ちにして此に來らしむ、郎は是れ當世の才子、多年女性の爲に慷慨せり、人は云ふ妾の如く多福なるは非ずと、妾も亦た驕り許して家門を出でたり、錦雲漸く破れて時に雨あり、晴天忽ち霹靂の音なきにあらず、木葉落ちて月冷凄、冷凄の月涙を温たむるに足らず。

○一年の總計　一人の妻

當る一ヶ年中に入金幾千にして出金幾千なりし、出金の内器具衣服の料に幾千食物活計の爲に幾千、入金の内給料幾千利金幾千返濟せられたるもの幾千なるぞ、此の極めて大略なる問に對してだも能く明らかに答へ得る細君果して何人ありや斯ては一家の大藏大臣たる職務は何の日にか盡されん來年よりは迚も之では成らぬ先づ日記帳を買い帳面を整のへ來年は必ず日々月々の計算を尤も明白に爲さるべし。

○萬國赤十字社大會の感（四）　石黒忠悳述

日本女服の討論の事　又或る貴女と面會致しました、其の名は分つて居るが、少し問答致したので有るから申しませんが「卿には妻子が有りますか」と云ふ問いで有るから、「有る」と答へた、婦人は又、「卿が外國に使して留守の間、妻君が家を守られる情は御推察申す」と云ふ事で有るから、少し癇には障るが、「誠に有り難う御坐る」と答へた、トコロが又婦人は曰く、「聞く所に依れば、近日貴國では女服を改めたと云ふ事で有るが、併し卿の御家内は如何なる衣物を着らるゝか」との問で有るから、いらん御世話ナとは思ひながら、「左樣で御坐る、新制の服を用ひて居る」（實は宅に居るには常に新制の服を着て居ると云ふのでも無いが、爰には然う申さなければならぬのです、且つ西洋服とは云はずして爰には總て新制の服と申しました）曰く、「何故に新制の服を用ひて居るか」と

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

問れますから、私の答には「我　皇后陛下は古今内外服裝の宜しきを擇びて、新たに服制を定められたので有る、且我々軍人たる者は王室とは親子も啻ならざるのもにて、皇后陛下の御撰定になりたる上は、我々は總て之れに倣無ければならぬ、倣ふのが臣子の務めで有る、私の家内も之れに依て新制の服を着るので御座る」と申した、所が貴婦人の申すには、「新制の服とは、歐洲の服に則ッたと云ふ事で有るが、然らば何れの國に則ッたので有るか」と問れる、私し益す癪に障ッたから、直に答へた「如何にも歐羅巴の服に能く似て居るが、新制の女服と云ふは、我皇后陛下が古今内外の宜しきを酌みて定められたので有るから、素より何れの國に因ると云ふ樣に、決して一國に偏したる者では御座らぬ」、何國の服に似て居ると申すことは御答へが出きません」、と答へてソレなりに別れたが、此の話しは第三日の晩に續くのであります。(未完)

○女子看護法の心得(其七)　華族女學校教授　津田梅子

病室に於ての心得の事　都て病室は靜かでなければありません家内の混雜の所を離れなる丈け清々とした愉快なる塲所を撰み出來るならば假令へ他の間は取込んでも其一間は病人の爲めにのみ用ふるやうにしたいもので御座います子供等は騷がしい者故に病氣の時は少しの事も氣に懸り新聞をがさくさせる音人の足音戸の開閉なども神經に感ずるものゆゑ之れを忘れぬやうにしたいものでございます度々之れを忘れてハ高い聲や爭や戲談などをして病人の頭痛にされハ或ハ跡で病人をがッかりさせるやうな事がございます病人には常に落付て安心して居るさまが見せたいものでございます如何程氣にかなわぬ事があるとも或ハ心配の事が多くとも病室にはいるときハさらりと之れを捨てゝハいるべき事でございます病人の外に吾等の心配を打明て相談する者がございましようから病人に心配の事を告げたり相談したりするハ爲す可からざる事でございます勿論隨分始終善い顏色を見せるのハ難い事でハありますが之れを爲ねバなりません部屋のまハりハ成丈奇麗にして置くべきことにて空壜の行列よごれた皿茶碗などに食物のハいりたるもの外の者の食物の臭や總てのちらかりハ成く病人のいやがる物にて夫に引換へ物事奇麗に片付け光線ハあまりきらくせぬやうによい加減に取りちよッとした奇麗な花でも置くやうにちいさい事に善く注意するときハ病人の氣の持方に大そうな違がございます。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

全國女學一覽

女學雜誌社編輯

山城國

京都府立女學校　京都
下京明倫女學校　同
京都府看病婦學校　同
京都府高等女學校　同
同志社女學校　同
京都尙寧學校女子部　同
京都華族女學校　同
婦人記音學會　同
婦人愛憐會　同
京都婦人集談會　同
西京婦人唱歌會　同
婦人割烹會　同
京都婦人金蘭會　同
京都婦人學藝奬勵會　同
桃花女工塲　同
京都婦人共勵會　同

大和國

河內國

和泉國

攝津國

府立大坂女學校　大坂
私立大坂女學校　同
大坂一致女學校　同
女子手藝學校　同
藝娼妓女學校　同
常磐木裁縫女學校　同
大坂府高等女學校　同
梅花女學校　同
女子手藝學校　神戶
堺區立女學校　堺
幼稚園女學校　神戶
神戶英和女學校　同
雜美郡女學校　大坂
ウイルミナ女學校　同
神戶英和女學校　神戶
相愛女學校　大坂
神戶女子學藝學校　神戶
神戶女子傳道學校　同
神戶女子手藝學校　同
神戶婦人禁酒會　同
大坂基督教徒婦人禁酒會　大坂
大坂婦人奬勵會　同
大坂婦人學習會　同
大坂相愛會　同
大坂基督婦人會　同
婦人協勵會　同
大坂婦人英語會　同
婦人實學會　同
婦人風俗改良會　同
大坂慈務會　同
紡績會社　同
大坂產婆講習所　同
大坂音樂唱歌傳習所　同
女工塲　兵庫
綜藝種智院　大坂

伊賀國

產婆講習所　知多郡
上野婦人會　上野

伊勢國

私立亘女學校　三重
松坂女學校　松坂
四日市女工塲　四日市
女工塲　龜山
婦人交際會　安濃郡
名張女學講談會　名張
婦人奬勵會　津
三重女教員講習會　三重

志摩國

尾張國

愛知女學校　名古屋
名古屋女學校　同
清流女學校　同
婦人共益會　同
婦人俱樂部　同

參河國

遠江國

婦人改良會　掛川
濱松婦人交際會　濱松
女子愛敬會　同
袋井婦人修道會　袋井
二俣婦人交際會　二俣

駿河國

三島女學校　三島
靜岡女學校　靜岡
靜岡英和女學校　同
靜岡婦人交際會　同

甲斐國

女子交際會

伊豆國

薔花女學校

相摸國

小田原女學館　小田原
小田原幸女學校　同
足柄婦人會　同
橫須賀婦人矯風會　橫須賀

武藏國

高等女學校　東京
師範學校女子部　同
跡見女學校　同
櫻井女學校　同

明治女學校　同
駿臺英和女學校　同
東洋英和女學校　同
海岸女學校　同
新榮女學校　同
女子傳道學校　同
立教女學校　同
佛國女學校　同
友愛女學校　同
女子神學校　同
恒德女學校　同
フヱリス女學校　横濱
水交女學校　東京
共立女學校　横濱
頌榮女學校　東京
華族女學校　同
共立女子職業學校　同
産婆學校　同
看病婦學校　同
裁縫學校　同
貴族女學校　同
女子專門學校　同
柳北女學校　同
禮美女學校　同
女範學校　同
私立女子經世學校　同
高等佛和女學校　同
京濱女學校　同
東京産婆學校分校　同
私立産婆學校　同

香蘭女學校　同
青山英和女學校　同
積德女學校　同
靜女塾　同
長榮女塾　同
東京府レース製造場　同
八王子女工場　八王子
松香女學館　東京
淑女館　同
哲女館　同
東京裁縫館　同
敬愛學舍　同
女工練習所　同
保姆講習所　同
西式女禮講習所　同
成立學舍女子部　同
江東義塾女子部　同
驥修學館女子部　同
東京藝學校女子部　同
東京女學　同
婦人智識交換會　同
婦人慈善會　同
婦人交際會　同
婦人編物會　同
横濱婦人慈善會　横濱
東京婦人禁酒會　東京
小石川婦人談話會　同
婦人養食會　同
婦人矯風會　同
大日本婦人衛生會　同

東京海軍々醫夫人會　同
東京貴婦人交際會　同
東京産婆會　同
横濱婦人交際會　横濱
海軍慈惠會　東京
埼玉縣婦人會　埼玉郡
淑女以文會　東京
通俗婦人講談會　同
本庄婦人會　本庄
秩父婦人會　大宮
英國女子裁縫會　東京
東京女工學舍　同
大日本婦人教育會　同
浦和婦人會　浦和
篤志看護婦人會　同
國風音樂會　同
貴婦人會　同
育女會　同
婦人唱歌會　同
横濱禁酒會　横濱
婦人勸業會社　東京

安房國

宏運會　水原

上總國

下總國

尋常師範學校女子部　千葉
巽女學校　銚子
千葉婦人懇親會　千葉
婦人衛生會　同
千葉女子教育談話會　同

常陸國

茨城婦人協會　水戸
茨城女子講習會　同

近江國

師範學校女子部　大津
私立高等女學校　同
大津公立女學校　同
私立女學校　犬上郡
婦人會　大津
大津婦人慈善會　同
近江婦人慈善會

美濃國

岐阜婦人教育會　岐阜

飛驒國

信濃國

師範學校女子部　長野
開智學校女子部　松本
裁縫專修所　同
松本婦人會　同
松本婦人矯風會　同
飯田婦人矯風會　飯田
上田婦人談話會　上田
小諸婦人會　小諸

上野國

前橋婦人會　前橋

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

藤岡婦人會	藤岡
館林婦人會	館林
婦人協會	西群馬
高崎婦人會	高崎
女子淸風會	前橋
上毛婦人教育會	同
吾妻婦人會	東群馬
淸揚女學校	前橋
音樂學校	

下野國

栃木婦人協會	宇都宮
佐野婦人手工會	佐野
佐野婦人協會	同
宇都宮女學校	宇都宮

磐城國

中村女學校	中村

岩代國

福島師範學校女子部	福島
若松婦人矯風會	若松

陸前國

仙臺婦人談話會	仙臺
仙臺婦人功藝會	同
婦人矯風會	同
東北基督信徒婦人會	同
女子育英會	氣仙沼
石卷婦人會	石卷港
婦人英學研究會	同
私立裁縫專門學校	實澤
英和女學校	仙臺

松操女學校	仙台
女子職業學校	同
同文女學校	同
宮城英和女學校	宮城郡

陸中國

岩手婦人會	盛岡
盛岡婦人矯風會	同
靜女學校	同

陸奥國

青森婦人會	青森

羽前國

英語女學校	山形
山形婦人會	同
婦人同伴會	西村山郡

羽後國

女子職業學校	秋田
鹿角婦人會	同
秋田婦人矯風會	同
秋田婦人勸業會	同
婦人謝德會	同

若狹國

越前國

妓風改良會	武生

加賀國

產婆講習所	金澤
師範學校附屬女學校	同
金澤婦人慈善會	同

能登國

越中國

越中婦人教會	富山
富山婦人交際會	同

越後國

新潟英和女學校	新潟
天主教女學校	同
高田女學校	高田
高田女子談話會	同
高陽女學會	同
婦人救世會	長岡
長岡女工場	同
女子手藝品共進會	新潟

佐渡國

佐渡女子學會	

丹波國

產婆講習所	何鹿郡
丹波婦人矯風會	船井郡

丹後國

但馬國

因幡國

鳥取英和女學校	鳥取
鳥取婦人會	同
同附屬女學校	同

伯耆國

出雲國

松江婦人衛生教育會	松江

石見國

教育婦人會	

隱岐國

播磨國

美作國

辻高等小學校女子部	大庭郡

備前國

山陽英和女學校	上道郡
私立岡山女學校	岡山
岡山婦人禁酒同盟會	同
岡山女子源泉會	同
岡山婦女子手藝展覧會	同
岡山基督教徒婦人禁酒會	同
女學振起會	同
婦人教育談話會	邑久郡
婦人英學會	岡山

備中國

順正女學校	高梁
婦人協會	小田郡

備後國

安藝國

廣島師範學校女子部	廣島
廣島高等女學校	同

Digitized by Google
Original from
CORNELL UNIVERSITY

廣島婦人會　廣島
廣島婦人協會　同
廣島婦人慈善會　同
吳港婦人談話會　吳港

周防國

防長婦人相愛會　都濃郡
白蓮女學校　同
山口女學校　山口
山口高等女學校　同

長門國

知新女學校

紀伊國

和歌山婦人會　和歌山
裁縫傳習所　同
和歌山女子高等小學校　同
和歌山縣師範學校女子部　同

淡路國

淡路婦人金蘭會

阿波國

德島女學校　德島
德島高等女學校　同
德島女子懲風會　同
崇德婦人敎會　富田浦

讚岐國

婦女懇談會　佛生山
讚岐婦人會
女子愛敬會　高松

伊豫國

松山婦人會　松山
松山婦人慈善會　同
婦人慈善會　北宇和郡
道後女紅場　道後

土佐國

高知婦人交際會　高知
婦人夜學會　同
高知高等女學校　同
尋常中學校女子部　同
高知英和女學校　同
英和女學校　中島
女子夜學會　羽茂郡

筑前國

福岡婦人協會　福岡
福岡婦人同伴會　同
庄村婦人會　庄時
南北小學女紅場　博多
女敎員養成所　福岡
福岡英和女學校　同

筑後國

三池婦人協會　三池郡
江浦婦人協會　同
婦人協會　竹野郡

豐前國

豐後國

肥前國

佛蘭斯女學校　長崎
スナルジス女學校　同
高等女子小學校　大手
尋常女子小學校　同
敬敷女子小學校　佐賀
佐賀婦人協會　同
婦人協會　同
佐賀婦人令德會　同

肥後國

熊本婦人談話會　熊本
熊本婦人懲風會　同
熊本基督敎婦人會　同
女子共立會　同
濟々學校女子部　同

日向國

大隅國

薩摩國

鹿島婦人會　鹿島

壹岐國

對馬國

渡島國

遺愛女學校　函館
六合女學校　同
修正會　同

後志國

奧尻全島民禁酒會　奧尻

石狩國

札幌女子職業學校　札幌
禁酒會　厚田郡

天鹽國

北見國

膽振國

紋鼈婦人會　紋鼈村

日高國

十勝國

釧路國

根室國

千島國

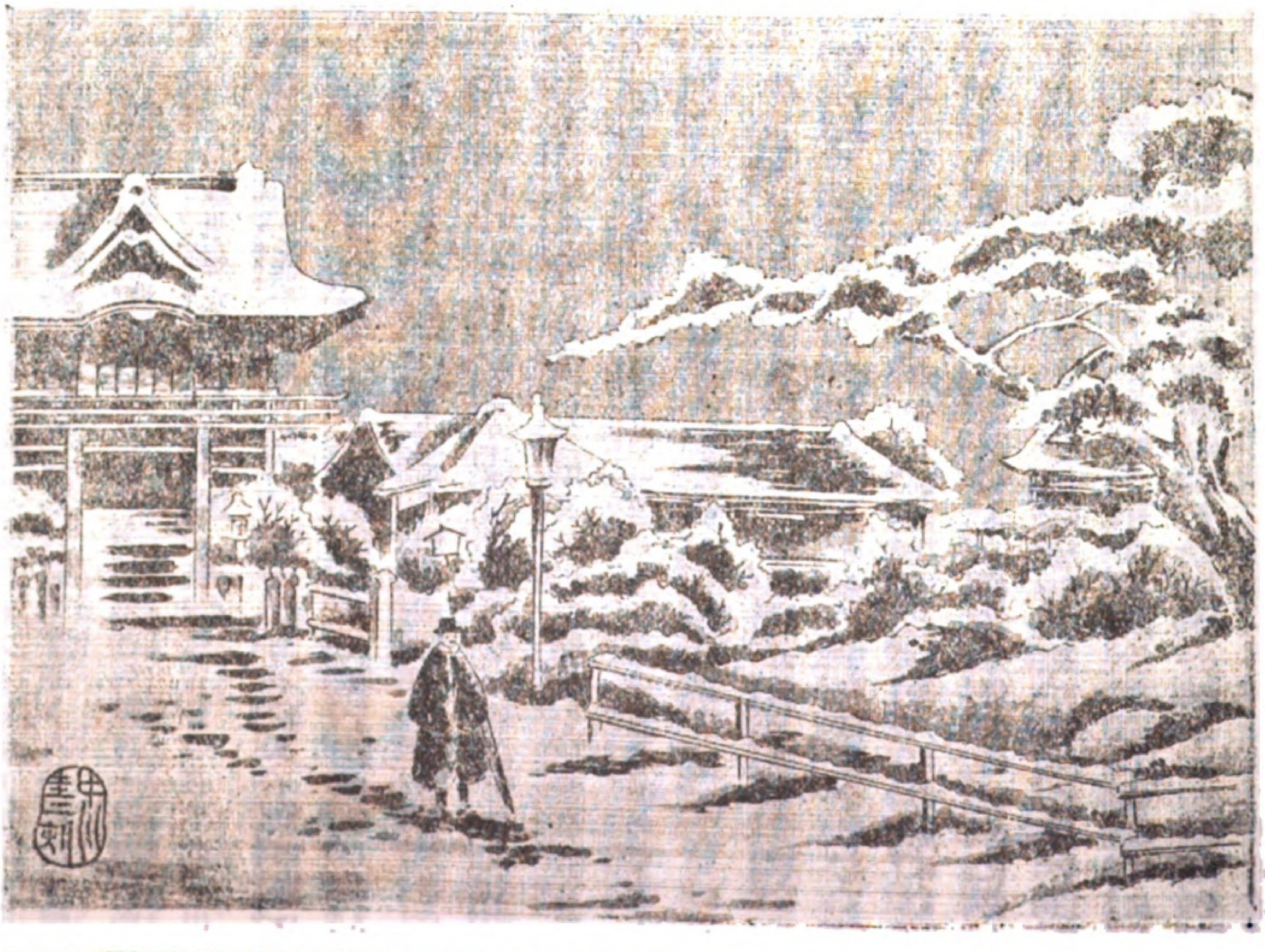
琉球國

東京京橋區日吉町八番地
編輯兼發行者　巖本善治
同芝區源助町十一番地寄留
印刷者　森田登

病人の見舞の事　今見舞の人を病人に逢せることに就て少しく申上度ございますがやみあがりの病人に取りては友達に逢ひて相當の話を聞くのは善いことには違ありませんが苦痛に堪兼て一言を發するも苦しい程の病人の所へ親類でも友達でも見舞に來る丈の人を通して其苦を見せるのは實に無殘なる習はしの一つでございます極の親友が側に居るさへ苦しい時はいやと思ふことがあれば此樣な病人へは家内の者なり醫者並に看護人の外は近づくべからざるものにて後に至り醫者がみとめて友達に逢つて話しをしたり聞たりしても害なしといふ時迄は誰も室内へ入れてはなりません體に苦しみのあるとき無理に話しをしましては跡で非常に勞れを感じ從て生活力は衰へまするのは人の經驗するところでございますされば病氣見舞の時は居ても格別手助にもならず却て邪魔に成りそうな時はたゞ見舞のことづけを殘して他日見舞ことが宜しくはございますまいか。

見舞に行くときは成丈注意して話すことにも不愉快のことや悲しい事を言ひ病人の感じを惹起すやうな話しはせず病人を樂しませ面白がらせるやうにせねばなりません。

概論　此の事に付ては澤山申上たいとがございますが唯一二



の點に就て其片はしを申上げて置かなければ餘り皆樣の御退屈にあります此樣な廣い事柄に就ては一々悉しく言はんには是を數年間の學問として學ばねばならぬ程の事でございます且又唯に書物上議論上のみに由りてはわからぬ事にて實際の經驗と注意とを經て學び得べき多くの事がございます是は銘々自分の病氣のときにどういふ心持であつたかどふいふ事が欲しかつたかを考へますれば直に分ることでございます衛生の法を知ることは大切なりと思ひ是れに就ての新しき事柄や近來の說などを學ばんとして勉めますれば學ぶに善い多くの方法がございます昔の習慣にのみなづんで是れは親達が決してしなかつたこと親達がこんな事などには搆はなかつたと云ひ吾が之をいたさないと云ふことはございません何故なれば近來の進步を見ますれば種々の學問上に就て今まで知らざる自然の法則を發見され醫學上にも其通り色々の發明をされたるは人の見る所でございますされば吾等は我先祖の古い足跡のみ便り唯風俗と習慣とのみを目當にせず日々進んでもの丶道理を學ぶべきことではございませんか且吾等の常に記憶せねばならぬことは啻に自身の爲めのみならず吾等の子孫の爲をも計らねばなりません吾等の子孫の强壯なるも微弱にしてかいない者となるも子孫の運よきも運わろきも皆吾等の手の中にあるものでございます。(完)

○島田三郎君通信

歐米婦女子の景況一斑(其三)

此他前文に記し候ギーコチス、ハウスはマイルメイと申所にあり小生一夕其狀を實見致し候處役員は其長を除き悉く婦人にて一週間日を分て或は製造所の職工或は御者等職務繁忙にて夜間の外餘暇なき人に或は速記法佛語學其他必要の文學數學畵學等は無報酬にて敎へ其間又品行を奬勵し惡習に陷らざるとに盡力する會にて婦人皆一樣の服を着け其規律の整肅なる其薫陶の懇切なる敬服の儀に覺へ申候此會の長はジェームス、マセソン氏にて著名の富家なり敎員は皆良家の令孃にて一身に關する費用を自辨するのみならず中には資を出して會費を補ふ者あり小生の參りし節は生徒七百餘人の出席にて壯年の男子、婦人の指揮に服事せる有樣英米婦人の社會に勢力あるは眞に偶然に非ずと存じ候政府の私業に關渉するを以て自由の發達に大害ありと申は今日日本政治社會の常套語に候が英米の自由は宗敎の精神によりて維持せらる丶の事實を觀察の外に置き候は一大缺事と存じ候今日英米の社會を動し居

る元素は極めて多くして其力政府の爲す能はざる所に及び政權の達するを得ざる所に現はれ候若し是等を擧げて政府の爲す處に委ねんには英米の自由は一日に消滅いたし申すべく而して政權以外に非常の勢力を現はし是によりて社會を動かし是によりて平和を保ち候は小生の見る所によるに宗教を除き何物か之あるべき。

佛國の人民自由を望みて同時に宗教を廢止せんと企てし其結果は冀望の外に出て今日に至り候ても佛國自由平和英米に如かざるヿは何人にも見易き事と存じ候而して英米と雖も今日婦人政治上の權は男子に及ばず之を與ふるの問題に就きては政治家學士の間にも頗る議論ありて是非未定に屬し候へども政權以外に婦人の社會を益するヿ且其勢力の大なるヿは此社會に注目する者の見易きヿにて婦人の社會に尊敬せらるゝヿは決して偶然にあらずと存じ候。

英米社會の事心目に感ずる者極めて多き中に老人の老て益々壯なると少婦人の豪氣活潑なるは東洋に見るを得ざる者と存じ候公私の集會共に白髮の老人必ず勢力を占め居るを見受け申候婦人の公益の爲めに勇進するヿは左の事實にて一斑を窺ひ得べしと存じ候小生の親しく知る所にては英國の將官にウ井リアムズと申す人あり其令孃は今年二十四歲位に見受らる信仰厚き人にて獨佛の語をも學び大陸にも旅行せし由なるが此人外國の布教に志ありアフリカに赴かんが爲に組織せし會社に入り盡力し居り近年日本婦人教育の緒に就くと聞き日本に參らんと申出でしが兩親未だ之を許さゞるを以て志を果さず小生兩三回面會致し候ひしが穩和なる婦人にて極めて謙讓の風あり此婦人にして此志氣ある乎と思ひ申候又ホルランド孃は某良家の女にて昨年母を失ひてより父外國に赴くを許し候とて日本に參るヿに相成り候此人は之迄前文マイル、メイの婦人有志會員なるが繪畫等に巧なりと承り申候小生右婦人有志會を訪ひ候節同孃と談話せしに次週に日本へ參り候支度にて多用なる旨話し其擧止極めて沈靜にて別に遠行を思ひ立たる樣子を見受け申さず同行者は英國教會の教師にて一ト先づ大坂に參り其れより東京に赴き可申等話し候是等の婦人は皆獨立の財產ある者にて全く日本婦人近時進步の運に向へると聞き人類同愛の感情より姉妹の爲に盡力せんとの志に出て候此絕高の志氣を以て之を夫の徒に功名の爲に小弱國を凌轢する政治家軍人の行爲に比するに其事業能く人の耳目を動かすも尊敬の分子は此類の男子に存せずして彼種の婦人に在

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

るべく天爵の月桂冠は婦人の手に落ち申すべくと存じ候。
來る十一月七日にはパルミムガムに於て當國改進黨の聯合大會ありグラッドストーン氏始め屈指の人々演說御座候に付同地へ參り候筈に御座候當日はグラッドストーン氏の夫人會長にて別に全國婦人の聯合會あり又アバルヂーン伯爵夫人會頭にて婦人に關する會議有之候伯爵夫人會頭の會は男子の出席を許さゞれ共婦人聯合會は小生出席の切符を得候　聞後便に摸樣を御報可申上候。（未完）

小說

○哲女の卷

第十回　初音　　月の舍忍

家は一番町青山剛が邸、時は翌年十二月の末と見えたり、半ば西洋風の客間に三人の紳士あり、ストーブの火に温たまりて談話細々たり、一人の孃頻りに往來出入し、中にも一人の紳士と最と氣遣はし氣に相談する躰あり、室內の樣姿總べて半喜半憂の趣き、烈火將に燃えなんとして先づ燻ぶるが如く、陽春將に回らんとして先づ風ふくに似たり、孃は極めて忙がわし氣に談じ且つ一笑しつゝ彼方に入りぬ、紳士は立つて伏間に傍ひ耳を欹だてゝ聽くなり。

チイ、宮本君どうだ、危ぶないのか。

問ひかけられて、彼の耳を欹だてたる紳士は元の座に歸り、靜かに答ふるよう、

でも無いようだが、然し輕くも無いようだ、どうか甘く往けば能いが。

問ひかけたる一人は更らに他に向つて、

高木君、何うしても那樣先生は重いだらうナア、女子高等敎育の結果は恐るべきものだと、君達が謂ふのは即はち此處だらう。

高木と云へるは醫博士に似たり、フーーンとあしらつて苦笑ひすれば、宮本は語ばをつぎ、

然し君、先生の變つたには漸くジャアないか、昔しの風はサッパリ見えないで……、實に學者の妻たるにはアレより外に心得方はあるまいて。

そうとも／＼、理想的の妻と云ふナア、あれだらうよ、靑山も能く擇べりと云ふべしダ。

フーーンの醫博士もそろ／＼辨じ出して、

森君などは、初めは非常の反對家だつたジヤあないか、君に

褒貶せられては、商人も亂高下に困り切るぜ。
ダガ君、初めは實に驚ろいたよ、青山がどうして彼を擇んだのか、幾ら哲學者だつテ、幾ら學問の友が欲しいと云つても、フラウ(妻)に迄で哲學者が入用でもなからうシヤないか、苟くも獨逸に多年留學したものがどうして彼樣な擇び方をするかと驚ろいたが、イヤ今日となつては反つて青山の卓見に服した、どうも哲學者の妻は矢張り哲學者を女にしたのが能よ。
宮本は再び立つて伏間の傍はらに掛念らしく居寄るに拘はらず、高木はいよ〳〵面白がり、
夫シヤア森君の細君は、小說家を女にしたのが善からうぜ、何んとなれば君自身が小說家なれば也ダ、我輩の妻もドクトルであれば善つたに殘念の事をした。
イヤ君は十分細君に毒を取られてるから、あれで澤山だ、あの上へ醫術に達すると君を麻醉させるワ。
馬鹿ア言へ。
宮本は再たび席に復り、靜かに、
青山も哲君を娶つてから、仕事が二倍になつたよ、夫れに青山の空漠なる哲學が、哲君の生物學で大分理學的になつて來たし、哲君は殆んど純然たる文學者に變つて仕舞つたが、夫婦の配劑と云ふものは實に甘く調合が出來るものだナア。
二人の默するによりて更らに語を續ぎ、
夫れに君、家政の取扱かひ方に至つては特に敬服するよ、青山が今のように窮して居るものだから、哲君が節儉の綿密なると、夫れに遣うべき所ろに少さかも惜しまないと云ふ內助の用意が歷々として見へるワ、僕カア青山の哲學的の發見よりも、哲君を發見したのが最大の見識だと思ふよ。
實にろうだナア。
時に以前の癡、走り出てたり、而も滿面に笑を含んで、續ひて青山剛剛強沈靜の面てに春を催うして優然として出づ、將に聲を發せんとする時、彼方ヱ於て先づ、
ヲキヤ〳〵
滿室玆に陽春となれり。(完結)。
忍云く、此卷未だ畢らず、然れども之を以て一段落となし、他日更らに題號を更めて背綴らんとを欲する也。

ひるは日なんぢをうたす、夜は月なんぢを傷じ。

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

佳傳

○舊富山藩主侍従前田利保公正室寶壽君の小傳

野口千里記

寶壽夫人は舊松平安藝守齊賢公第三女也幼名久美姫後延姫と稱す文化元甲子の年江戸霞ケ關にて誕生あり幼年より聰敏端正溫厚仁恕にして讀書筆道和歌其外琴皷謠曲舞樂に至るまで妙處に上達せり文政三庚辰年利保公と婚儀整はせ下谷山崎町(今の新阪本町)邸へ入輿し玉ひ男子五人女子四人出產あり長子嵩丸次祐次郎次鋋女次鐵女次鉄三郎次鉎女次鍮女後弘姫と改む此姬君舊大聖寺藩主前田基五郎公へ嫁す婚姻の際寶壽君教訓云必ず婦道に違ふと勿れ貞操を守り恭敬孝道を以て舅姑に事へ家臣を使ふに愛憎を以てする勿れ過を遂ぐる勿れと爾後大聖寺利平公の室壽松院君(即姑)中風症を憂らると三年の久きに至るも手自ら介保し一日も怠らす孝養至らざる無も偏に母公の教戒正しきに依る次欽之助次久丸次幸姫也利保公の妾峯女艶女等正室の貞操を稱歎して當時侯伯の內斯の如き貴婦人又二人とあらずと御維新の令により富山本城に住せらるゝも再び東上して舊下谷新阪本町邸に居住し玉へり舊藩の士民來邸するものへハ懇ろに溫顏慰籍して遭遇を欠かるゝとなし言く舊士の士舊故を忘却せずして來邸する其志し厚きに非ずんハ焉んぞ慕ひ來るを得んやと或は酒肴を賜り菓餅を與へて談話を成し玉ふ最齡八十歲の頃より耳聾せらるれバ常人は慵く厭ふ處なれども更に意とせられず常に替るとなし素より坐臥の儀正しく早朝より正坐せられ寢に着るゝまで偏倚跛箕の躰あると近侍の人も絕て見るとなしと云晚年に至り佛道を修せられ其眞意を悟り一義を聽き百義に通ぜられ嘗て西本願寺僧光尊師に就き經文の大意を聽聞ありて其意旨の眞心を書して示されたれは院主感歎して曰正眞の佛なりと賞賛されたりと尙其書を以て信徒の訓戒となさんとて婦人教會雜誌に載せて世に公けに成すと云且平日食餌の養生愼み深きゆへ斷へて宿痾なく本年十一月二十日より少しく容色常に異り二十一日午後に突然と侍女に言て曰く余の世に在るは今日限りなり明日は此の世に在らず故に親族及ひ家屬の輩に訣別を告んとて皆々呼び集めよと言へり侍女等思ふ此の微恙にして此の言を聞き不審すと雖も其命を奉ぜざるを得ず馳て招集し孰れも傍らに在り人々の顏を見て欣然笑を含みて歡喜の色を呈し念珠を潔紙に載て其儘睡るが如く八十有五歲を一期として溘然簀を易へられたり實に天壽を終へられたりと云ふ可し歌

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

集若干巻あり撰集に暇あらず。
因ニ云侍女淵尾ト云ハ實森君ノ小姓ナリ十三歳ヨリ近侍ヲ勤メ身ヲ以テ君ニ奉ズルノ賢婦ナリ一生人ニ嫁セス六十有餘年一日ノ如クナリ此ノ聖母アリテ此賢婦アリ又世ノ鑑トナランコヲ欲ス。

寄書

（本號餘白に乏しく亦此欄を除く）

新報

（此欄内自由に轉載を許す）

○皇族の御改名
久邇宮の睦子女王殿下は絢子と改名願出でられ去る十八日聞食届けられたり。

○皇族の御上京
久邇宮子女の内絢子女王素子女王兩殿下は菱に邦彦王殿下と共に御上京にて絢子女王殿下は小松宮へ素子女王殿下は香川皇后宮大夫邸へ寄留相成りたる由。

○印度女學士ラマバイ女史
ラマバイ女史の渡航に付ては奇談甚はだ多し、朝野新聞の通信員は確かに横濱にて面會したりと云ひ其の人相骨柄迄を細記し、文の編者は極めて明白に其の印度より直航したるとを證したりしにも係らず、去十九日入のヲシアニック號にて恙がなく渡來し、去廿三日には東京婦人矯風會の爲に府下厚生舘にて一場の演説を爲したり。

同女史の傳紀は女學雜誌第百二十一號及同二號に精しきに付今復たび贅せず。抑も同女史が今を去る六年前即ち西歷一千八百八十三年五月に於て初めて英國に渡りたる時は、嚢中の所持金僅かに三弗半にして英國語の一句をも辨ぜざりしが、玆に二年四ケ月を費して英國の歷史文學科學數學及び希臘學神學を學び、一千八百八十六年二月米國に渡りて今度日本に向ひ發足したる迄で、凡そ二ケ年の間に、招待せられて演說すると一百四十回、ラマバイ協會を作ると五十、金を募り得たると七萬五千弗なり、今ま其風采を見るに或人の評したる如く、獅子の勇、蛇の智、鳩の愛、實に備はる、亡國の女傑實に敬愛すべきもの也。之が爲めに一臂の力を假さ吾人は同女史の爲に同情の念を有つと甚はだ切なり、んとを欲す、世上の仁人乞ふ亦た之を賛けよ。

○同女史へ對する義集金
去廿三日の演說會に於て即席に集金し得たる金額三十六圓五十錢ありたり、之は悉く同女史へ寄送せられたり。昨日吾社に於て催うしたる演說會に於ても亦た若干の集金ありし、此は次號に於て細記すべし。

廣告　ラマバイ女史著作“High Caste Hindoo Widow”即ち印度高族幼年寡婦の慘狀を記るしたるもの一册代價一弗三十錢也女史は之を賣拂ひ其の入金利子を以て印度に設立する寡婦院の費用と爲さんとす故に米國シカゴ婦人禁酒會出版局に於ては熱心に其賣賤めに盡力し以て女史が志を賛けんとする也余亦た之が爲めに一臂の力を假すを得ば幸甚なるが故に玆に同志者と共に連合して成べく多數に同書を買求めんと存す、依りて米國へ注文申送りの日限を來二十二年一月三十一日と爲し廣く買客を募る右同志の方は金一圓五十錢封入の上小生へ向け申込れたし、書籍着荷の上實費を明算して更らに報告すべし蓋し此書は讀むと讀まざるとに非ず寧ろ多く買ふを欲しとする也。

東京日吉町八番地　女學雜誌社長　巖本善治

○女の獻上

菱に熊本より某寺へ女子一人を獻上したる趣きを記せしに、誤まりなる由にて正誤したり、然るに去二十三日每日新聞は再び左の如く報じたり、

○女の獻上　近年は婦人を某寺に寄附するとか流行と見へ過る十五年には石川縣下加賀國金澤なる某の娘松枝の寄附あり本年夏には肥後國熊本にて娼妓の寄附ありし然るに此頃又々熊本二本樹の或る家より梅と云ふ娼妓を某寺出張所詰の某へ寄附したる由其摸様は供方一同袴を着し婦人をば新調の乘物に打乘せ前後左右を警護して恭しく先方へ屆けたり其時の添書は左の如

一女　一人
右は御法禮として奉獻上候也

一女　一人
右御法禮として獻納せられ慥に請取候事

先方の侍者某は之を受取り左の領收證を與へたり

斯くて此方の寄附者は其領收證を押戴きアナ難有や忝さやと隔帯の袈裟を濡し南無阿彌陀佛々々々々と異口同音に三拜九拜喜び勇んで歸りたり云々と肥後より通信ありたり。

之も亦た誤報ならば幸ひ也。然れども佛界從來の習慣として女人を獻ずるの禮ありしとは確實にして、而して現今更めて之を禁ずるの布告法界に行れたりと聞かず、左れば前回の報道及び此度びの報道が好し誤まりなりとするも、佛教社界に尚ほ此の禮の存するとは昔日の如しと知るべし。今や其獻上せられたるは娼妓なりと云ふ、而して之を請取りたる僧侶は果して之を何如んせんとするか、嗚呼佛教社界に於て女子教育に從事せらるゝの名智識よ、君等先づ此の類の弊風を削除するに非ずんば、其他の萬事果して何の効あらんや。

○全國女學一覽

本號の附錄としたる全國女學一覽は、現に吾人が知れる限りに於ての女學校女學會の名目たり之に洩れたるも多かるべく載せて既に廢滅したるも少かるまじ、故

に讀者にして之が增補改正の報道を寄せらるゝあらば幸ひ甚たしと云ふ。

〇女生徒銘々錄

教育は靈魂上の仕事にて器械的の畫一手段を惡むものなれば、教師は勉めて生徒銘々の氣質特性に注意し、專ぱら其の個々に適するの教戒を施こさゞる可らず、夫れには其生徒從來の經歷を要知し、且つ入校中漸次の變遷を承知せねば成らぬを以て、教師は何かの手段によりて之が經歷を知るの工夫を爲し、且つ在生徒入校中學業品行身體等の變遷を書留置くべき細密の記錄を備置くを要す」、承へるに府下の某女學校に於ては此主義を以て近頃各生徒の父兄に向け凡そ三十條の質問を送られたりと云へり、斯る事は日本の父兄が未た慣れざる丈にて、中には反つて不審し嫌惡さるゝ向あるやも知れず、然し此は教育上に大切の事件なるを以て、可成く明白に答述さるゝをぞ宜しからん、次には其校に於ての如此き記錄細密に行屆きて之が數年の經驗の大ひに女學を益せんとを望むもの也。

〇那珂通世君

君曾し女子師範學校長となり、同校の教育一新變したり、然るに何の故か三年前忽焉として非職を仰せ付られ、女子教育社會皆な愕然として驚き且つ歎じ居たるに、此度再び徵されて高等師範校の幹事と爲られたり、君が女子教育に於けるの熱心之より復た噴出するの火口を得たりと云ふべし、吾人之を祝す。但だ一事の預じめ願置度事あり、即ち彼の舞踏なるものは之を再び該校に輸入せらる可らず、之は實に君に似合ぬ所の遊びに候ぞ。

〇ガナサン女子　同女子は豫州松山女學校の招聘により先きに松山に赴かれ松山女學校の教授を引受け永く同地に滯在せらるゝ筈にて其住宅の建築さへ爲さるゝの目論見ありし由なるが如何なる都合にや去る十五日俄かに神戸に歸へられたりと云ふ。

〇彙報　本所橫網町なる淑女館は今度產婆教授所と併せて校舍を新築し既に落成せしを以て去る廿二日開場式を執行せり〇麻布鳥居坂なる東洋英和女學校は去る廿一日閉校式を執行せり〇華族女學校は去る廿四日閉校し一月十一日を以て始業せらるゝ由〇新潟縣にて去る十月に施行せし產婆試驗に及第せし者へ去る四日內務省より免狀を下付せられたり。

外報

（此の欄內自由に轉載を許す）

〇家政學試驗場　ノースフヒールドに在るムーデー氏の女學校にては近々家政學の試驗場（Domestic Science Laboratory）を設くる計畫あり彼の米國に初めて英國教育主義を輸入したるエミリー、ハンチントン孃之を監督せらるゝ由なり。

〇萬國淫罪全滅會議　デユマークに於て去月開かれたる萬國淫罪全滅會議には出席人一千人以上あり中にもヘル、ベーゼル氏の發議として女子賣買を禁ずるとを萬國公法の一條とすべしとの論も出でたる由。

〇米國婦人印度協會　印度傳道を目的とする米國婦人の集會する題號の會にては去十一月七八の兩日フヒラデルフヒアにて年會を開き、アメリア、クノントン夫人を再撰して會頭としたるが去る一年間に同會あり印度內に打立たる傳道會社は十二ありと云へり。

〇現世記の大發見　去月の米國婦人禁酒會年會に於てウイルラルド孃が年會演說に日く十九世紀には多くの發見を爲したり然れども女性が彼自身を發見したるよりも大ひなるはなかりしと。

〇ブース孃　ハーパース、バザールの記者メリー、エル、ブース孃は年給八千弗を受るが其外數多の反譯をなし已でに今日迄に佛書五十卷を譯したるほどなれば右反譯の爲に亦た每年五千弗位ひを受ると云ふ。

小供談

正直なる小娘（其五）

ヘッチーは申しますには、

「モー別に仕方がないからさうしませう」。

と斯く述べ去て聲を高く泣たりける、然るに兵隊はヨシ〳〵夫にて全く相分つたり、此道を行きしに相違なしと合點して最早二言と言はず其儘に走せ行いたり。

然るにグリスチルドは兼ねて殘し置く二人の船頭と、約束して若し何事か危難あるときには彼の親類の窓より合圖を出すべし、晝ならば白きハンカチを出して振るべし、夜ならばランプを出して見すべし、夫迄は河の邊の木かげに隱れて居て若し合圖を見たらば出かけて救ひの用意を爲し呉れよと、申せしとゆへ彼のグリスチルドが親類の家を飛び出ると同時に家の內にては窓よりハンカチを出して例の合圖を爲せしにより船頭二人は心得て船を沖に出せり、左れば兵隊は河邊に至りしとき遙かに之を見、船中に二人あるを見て、グリスチルドはもはや逃れたり最早致し方なしと斷念して引かへしたりと云へり、畢竟ヘッチー女の正直なる剛膽によりて助かりしとゆへ、グリスチルドは其後之を紀念せんとて己が娘にヘッチーの名を附し終生其の恩を覺へしと云ふ。（完）

Digitized by Google　Original from CORNELL UNIVERSITY

廣告

社告

愛讀者諸君へ申す
女學雜誌代金御拂込の節は東京芝日蔭町郵便支局へ向け為替御振込み被下度願上候

十二月卅日

女學雜誌社

教理一夕話

牧師 今井壽道君講述
傳道士 山田茂三郎君筆記

全一冊百四十五ペーヂ
壹冊 三十錢　拾冊 一圓五拾錢

右ハ洗禮晩餐禮其他婚姻埋葬教育等ヲ廿二章ニ分チ簡易ニ論述シタル良書ナリ諸兄姉愛讀アレ

發行所　芝區愛宕町三丁目一番地　**東京雜誌館出版局**

大賣捌所　麻布區飯倉四ツ辻六丁目十七番地　**福田書店**
京橋區銀座三丁目　**十字屋書店**

紳士淑女 談話之秘訣

全一冊 正價二十錢 郵稅八錢

抑々此書たるや敢て喋々の辯舌を待たずして交際社會に必用の書たれば苟も交際を重ぜらるゝ諸君は宜敷一讀して御高評あらんことを

明治廿一年十二月下旬
神田區錦町一丁目十一番地　**十字屋 藤[illegible]太郎**

附言 送金は内神田郵便局又は通運に限る但し郵券代用一

同志社大學義捐金募集取扱廣告

今般同志社大學設立ニ關シテ發起者新嶋襄氏ヨリ其主旨ヲ普ク江湖ニ告ゲ同感人士ノ義捐金ヲ募集依頼致候ニ就テハ各社ニ於テモ其主旨ヲ賛成シ右義捐金募集取扱候ニ付篤志ノ諸君ハ多少ニ限ラズ金圓相添ヘ各社ノ中ヘ御申込ミ被成候ハヾ取纏メノ上發起者ニ相渡シ同志社大學設立ノ資金ニ充テ可申候

一 金圓御寄送ノ向ハ之ヲ受取リタル社ノ新聞雜誌上ニ其金高並ニ姓名ヲ記載シ別ニ受領書ヲ差シ出サズ
一 義捐金額ハ拾錢以上ニ限ル
一 來ル明治二十二年四月三十日ヲ以テ締切期限トス

報知新聞	報知新聞社
每日新聞	每日新聞社
朝野新聞	朝野新聞社
東京電信	東京電報社
公論新報	公論新報社
改進新聞	三益社
東京朝日新聞	東京朝日新聞社
繪入朝野新聞	繪入朝野新聞社
東京經濟雜誌	經濟雜誌社
基督教新聞	警醒社
國民之友	民友社
女學雜誌	女學雜誌社

Digitized by Google
Original from CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

生徒募集廣告

本校今般廿二年度定期生男子三十五名女子十五名募集候條志願者左ノ諸項心得ノ上一月十三日迄ニ願書携帶出校ス可シ
但入學試驗聽音及發音ノ二トス
一年齡十五年以上三十五年以下ノ男女子
一卒業期限滿六ケ月
一女子生ハ當分入塾ヲ許サズ

本鄉區追分町

私立 **東京唱歌專門學校**

本村熊二、田口卯吉兩君序○關輪正路君纂著

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一冊 賣價四十五錢 郵稅十四錢

凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同樣に助けあるとを想像し玉ふべし

佐々木豐洲女史譯

婦人言論の自由 全一冊 賣價八錢 郵稅四錢

右は婦人の言論に關するとに付き切論せられたるものなれば姉妹方の必ず閱讀せらるべき價値あるものなり

嚴本善治編

女學叢書 **木村鐙子小傳** 全一冊 賣價十錢 郵稅六錢

右は鐙子刀自の傳記にて刀自か在世中の艱難辛苦を編纂せしものなり

以上掲ぐる處の三書の如きは尤も便利にして有益なる書物なれば歲暮年玉等の贈物に用ゐて最も妙なるべし

京橋區日吉町八番地

女學雜誌社

發兌					
九月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日
十月。	六日	十三日	二十日	廿七日	
十一月。	三日	十日	十七日	廿四日	
十二月。	一日	八日	十五日	廿二日	廿九日

定價

一冊。五錢　郵稅。一錢（但府內無郵稅）
十冊。四十八錢郵稅。十錢（同前）
半年分　一圓十七錢　府外は　一圓四十三錢
一年分　二圓卅四錢　府外は　二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記錄を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲ぐるものに右雜誌十部の注文を要し以上半頁分每に十部增の割合と定む

一行　一回　前金拾錢（廿七字詰）
同　三回以上　一割引
同　六回以上　二割引

十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる事物の廣告は謝絕す有益なる物の廣告は無代價にて引受くべし女學に關係の書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町殿々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町國々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新葭町良明堂○同京橋區木挽町壹丁目萬字堂○同本鄉區元富士町盛春堂○同本鄉區春木町二丁目解明堂○同本鄉四丁目文吉堂○橫濱住吉町角田屋百○同太田町三丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入湊集光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチアンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町偕進堂○廣島縣大手町一丁目星速社○長崎酒屋町虎與號○江州彥根西內大工町新々堂○相州小田原緒町石壽堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十二月廿七日印刷
明治二十一年十二月廿九日出版

發行所　東京京橋區日吉町八番地　女學雜誌社

編輯兼發行者　東京京橋區日吉町八番地寄留　嚴本善治

印刷者　東京芝區源助町十一番地寄留　森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8B HIYOSHICHÔ, SHINBASHI, Tôkyô, Japan.

Digitized by Google

Original from
CORNELL UNIVERSITY

遞信省認可

生徒募集廣告

本校今般廿二年度定期生男子三十五名女子十五名募集候條志願者左ノ諸項心得ノ上一月十三日迄ニ願書携帶出校ス可シ
但入學試驗聽音及發音ノ二トス

一 年齢十五年以上三十五年以下ノ男女子
一 卒業期限滿六ヶ月
一 女子生ハ當分入塾ヲ許サズ

本郷區追分町
私立 **東京唱歌專門學校**

女子必携 **今世ひめ鑑** 全一册 實價四十五錢 郵税十四錢

木村熊二、田口卯吉兩君序○關輪正路君纂著

凡そ當世婦女子の心得べき承知すべき質問すべき箇條は大抵記載し有之候蓋し昔の「ひめ鑑」の重寶なりしとを御存知の方々は此開化したる當世のひめ鑑も亦同様に助けあるとを想像し玉ふべし

婦人言論の自由 全一册 實價八錢 郵税四錢

佐々木豐洲女史譯

右は婦人の言論に關するとに付き切論せられたるものなれば姉妹方の必ず閲讀せらるべき價値あるものなり

女學叢書 巖本善治編 **木村鐙子小傳** 全一册 實價十錢 郵税六錢

右は鐙子刀自の傳記にて刀自か在世中の艱難辛苦を編纂せしものなり

以上掲ぐる處の三書の如きは尤も便利にして有益なる書物なれば歳暮年玉等の贈物に用ゐて最も妙なるべし

京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

發兌

九月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日
十月。六日 十三日 二十日 廿七日
十一月。三日 十日 十七日 廿四日
十二月。一日 八日 十五日 廿二日 廿九日

定價

一册。五錢 郵税。一錢 (但府内無郵税)
十册。四十八錢郵税。十錢 (同前)
半年分 一圓十七錢 府外は 一圓四十三錢
一年分 二圓卅四錢 府外は 二圓八十六錢

廣告

特別廣告は婦女に關する協會會合等の記録を掲ぐるものにて一切無料とす但し紙面半頁分の廣告を掲載する物に右雜誌十部の注文を要し以上半頁分毎に十部附の割合と定む

一行一回 (廿七字詰) 前金拾錢
同 三回以上 一割引
同 六回以上 二割引
十行以上一割引。二十行以上二割引。四十行以上三割引。但し不道德なる物の廣告は謝絶す有益なる書物の廣告は社説の[illegible]に無代價にて引受く女學に關係ある書籍は一部の寄送を乞ひ相當の廣告をなし且つ本誌に批評すべし

女學雜誌賣捌所

東京神田區淡路町假々堂○同芝西久保櫻川町萬春堂○同神田區雉子町團々社支店○同神田區佐柄木町東海堂○同日本橋區新[illegible]町[illegible]明堂○同京橋區木挽町四丁目萬字堂○同本郷區元富士町[illegible]春堂○同本郷區春木町二丁目開明堂○同本郷四丁目文叢堂○横濱住吉町角田[illegible]○同太田町二丁目萬字堂○同日月堂○同本町六丁目日の出屋○京都四條通小橋西へ入[illegible]光堂○同三條通東洞院西へ入クリスチヤンボード○大坂備後町四丁目岡島支店○仙臺國分町十五番地伊勢安雜誌部○宮城縣仙臺大町木村文助○尾張國名古屋本町石版社○出雲國松江新町[illegible]進堂○廣島縣大手町一丁目早速社○長崎酒屋町虎與號○江州彦根西内大工町新々堂○相州小田原[illegible]町[illegible]堂○上州高崎田町煥乎堂○土佐國高知本町三丁目樂園堂○熊本文明堂

明治二十一年十二月廿七日印刷
明治二十一年十二月廿九日出版

發行所 東京京橋區日吉町八番地 **女學雜誌社**

編輯兼發行者 東京京橋區日吉町八番地寄留 巖本善治

印刷者 東京芝區源助町十一番地寄留 森田豐

WOMAN'S MAGAZINE.
"JOGAKU ZASSHI."

Price 5 *sen*. By post *yen* 1.43 six months, *yen* 2.86 per annum, in advance.
Edited and Published by Y. H. Iwamoto, at The Jogaku Zasshi Office, No. 8 HIYOSHICHŌ, SHINBASHI, Tōkyō, Japan.